ウガンダのムベンデ県にてレモングラスの栽培拡大と環境教育による環境保全事業

活動 3.9 新製品開発　（石鹸とキャンドル）

日時と場所:

	日時	場所
1	2019 年 2 月 10 日	Uganda industrial research institute (ウガンダ産業研究所)

導入:
本レポートは、レモングラスのエッセンシャルオイルを原材料として用いる製品の開発過程を報告する。活動として、エッセンシャルオイルを用いたキャンドルと液体石鹸の作成トレーニングを SORAK のスタッフを中心に受講した。

トレーニング・活動の目的:
トレーニングの目的は、SORAK のスタッフがレモングラスのエッセンシャルオイル（原料）を用いたキャンドルや液体石鹸作りの適切なスキルを身につけることにある。このようなスキルは、現地においてまだ市場規模が小さいエッセンシャルオイルを SORAK が将来的に活用する際に役立つと考えられる。

参加者:

	男性	女性	合計
SORAK スタッフ	3 名 Mafabi Martin Matovu Bazilio Muhammad Kyeyune	2 名 Nnakiruuta Hadijah aBabirye Maria Gorret	5 名
青少年	4 名	8 名	12 名

ファシリテーター:
本トレーニングは液体石鹸やキャンドル等の製品の製造に精通しているコンサルタント企業のナカト・フローレンスとナムテビ・ハリス 2 名によって実施された。上記 2 名は製造および一般的なビジネスの知識を提供する専門家である。

活動内容:
以下の活動を実施した。

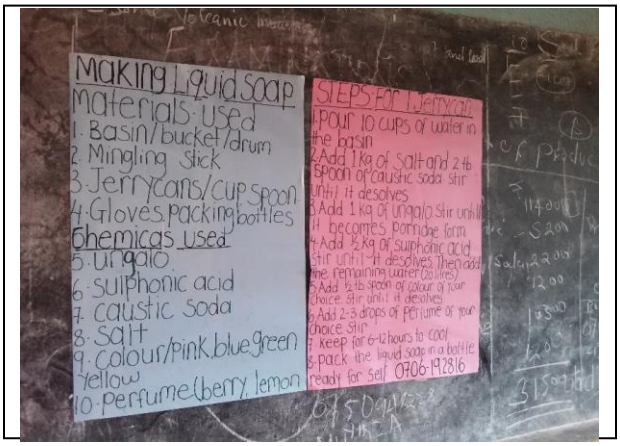
1. キャンドルワックス、キャンドル型、化学物質(ウンガロ、硫酸、水酸化ナトリウム)、塩、着色料(ピンク、青、緑、黄)、香料(ベリーレモン)や、たらい、バケツ、

ドラム缶、混ぜ棒、ジェリカン、カップ、スプーン、軍手、詰め用ボトルなどの道具類を含む製造に必要なアイテムの準備。

2. 参加者は製造工程を一通り把握し、レモングラスエッセンシャルオイルを用いた製品、市場性のある商品の開発について学んだ。以下に詳細を記す。

以下の工程は液体石鹸ジェリカン 1 個分の作り方の説明である。

- たらいに水 10 カップを流し入れる
- 塩 1kg と水酸化ナトリウム 2 ティースプーンを加え溶け切るまで混ぜる
- 1kg のウンガロを加えポリッジ状になるまで混ぜる
- 0.5kg の硫酸を加え溶けるまで混ぜる。その後残りの 20 リットルの水を加える
- 着けたい色の着色料を 1/2 ティースプーン混ぜ入れる。
- 適量の香料を加え溶かす。
- 6〜12 時間安全な場所にて冷ます。
- 完成した液体石鹸をボトルに詰める



液体石鹸の作り方の工程、および製造にかかる材料の説明

キャンドル製造で使用する材料

成果:

1. SORAK スタッフはキャンドルと液体石鹸の製造方法を身につけ、次期プロジェクトに向けて商品生産を開始する準備ができた。
2. トレーニングの後、トレーニングを受講した SORAK スタッフにより学生を対象にキャンドルと石鹸の作り方を SORAK オフィスにて指導した。
3. 参加者はレモングラスの利便性を再認識するとともに、レモングラスを使って重要かつ有用な製品を作ることができるということを理解した。

4. 将来的に助成金に頼らずとも SORAK の団体を運営し続けられる収入創出の活動をする準備ができた。

主な課題:

1. SORAK は商品の販売戦略を練る必要がある。(販売方法や販売場所、販売対象、市場への参入方法、価格戦略、製造チームの組織化など)
2. 魅力的かつ市場内で目立つデザインの商品にする必要がある。商品開発の段階でこの戦略を立てる予定である。

提案:

参加者及びトレーナーの提案は以下である。

1. 2019 年の次期プロジェクトの助成金をもって商品の製造を開始する。
2. 販売可能なマーケットがあるか、また商品が市場内で十分競争力があるかなどを事前に調査する。そうすることで商品製造の継続及びサプライチェーンを確実なものにする。
3. 将来的に紅茶や香水などの新しい商品作りができるようにスタッフをトレーニングしておく。

結論:

結論として キャンドルと液体石鹸作りを通してレモングラスに付加価値をつけるスタッフへのトレーニングはとても価値あるものとなった。これらの製品の製造・販売が成功すれば収入創出、及び団体の活動継続を確実にすることができる。そのため、SORAK は更なる商品開発（研究）とそれに向けた新製品の開発をしていくつもりである。